

# 文章の論理

科目責任者 菊池昌彦  
学年・学期 1学年・1学期

## I. 前文

作文技術の向上を通して医療従事者として必要な論理的思考や表現力、コミュニケーション能力を身に付ける。

## II. 担当教員

非常勤講師 菊池昌彦（元下野新聞主筆，元とちぎテレビ放送本部長）

## III. 一般学習目標

論理的な文章の展開，段落構成の方法を学ぶ。難しいことを咀嚼（そしゃく）し平易な言葉に置き換え，誰もが理解できかつ説得力のある文章作成を目指す。講義を通して会話を含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図る。

## IV. 学修の到達目標

解説～作文演習～講評を繰り返し，伝えたいことを確実に文章化できるようにする。

## V. 授業計画及び方法 \*（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）  
2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	4	24	水	5	プロローグ・「なぜ，論理的で分かりやすい文章なのか」	菊池昌彦	6 (作文演習)
2	5	1	水	5	文章の基本1	菊池昌彦	6 (作文演習)
3		8	水	5	文章の基本2	菊池昌彦	6 (作文演習)
4		15	水	5	文章の基本3	菊池昌彦	6 (作文演習)
5		22	水	5	文章の基本4	菊池昌彦	6 (作文演習)
6		29	水	5	文章の基本5	菊池昌彦	6 (作文演習)
7	6	5	水	5	文章の基本6	菊池昌彦	6 (作文演習)

## VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

毎回の演習が試験。出席と論理的な文章構成の進捗度合いを総合して判定。

(評価の割合＝作文演習→80%，出席・態度→20%)

## VII. 教科書・参考図書・AV資料

毎回レジユメを配布。Bか2Bの鉛筆，シャープペンシルを用意。推薦書がある場合は講義日に提示。用字用語は記者ハンドブック（共同通信社編）が基本。

## VIII. 質問への対応方法

講義日に対応。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP    ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作文は評価したうえで、講義日に評価の根拠や改善点を説明して返却。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習＝講義前にレジメを読み質問や疑問点を整理する。

事後学習＝講義内容を踏まえて実践し、文章を書く習慣を身に付ける。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。